

趣 意 書

主の御名を崇めます。

主にあつて福音宣教のために労しておられる皆様にご挨拶申し上げます。

私たちの間から国内伝道のためだけでなく、遠く海外において、主のみことばを伝えるために召される人々が増えておりますことは、主にあつて私ども一同喜んでおります。また、その方々の宣教活動を支えるために、献げる人々が増えておりますことも素晴らしい恵みの事実です。

このように日本にあるキリストの教会の海外宣教に対する関心が高まってきている中で、宣教師を送り出す体制を整える必要はいよいよ大きくなっております。

しかし、福音的な諸教会は多くの場合、その体制を整えているとは言えない状況にあります。

現実に宣教師が送り出され、月々の必要が満たされ、また働きのための諸費用が与えられる等の点については、比較的困難は少なくなっていますが、現地での諸団体との協力、宣教活動中の重点の置き方、非常事態に対する救援、厚生施設、帰国時の住居等、宣教師派遣に伴って、当然考えなければならない諸問題について、具体的には殆ど何もなされていない状態のままで、宣教師個人に、重荷が負わされていると言ってよいと思います。教派、教団の責任において派遣される宣教師については、その団体が責任をとることが出来ませんが、超教派的な支持の下で送られる宣教師については、これらについての配慮は全くなされていないと言わざるを得ません。一人または二、三人を送り出しているのが現状である、数多くの海外宣教団体が、それぞれの施設を持つことも当分不可能でしょうし、それらが協力態勢を作って、共同の施設を持つことは当分考えられません。また、欧米に本部を持つ超教派団体に加入することも、差し迫った問題の解決の助けにはなるでしょうが、日本の教会の中から起こってくる、海外宣教活動に対応するためには、極めて不十分と言わざるを得ません。

私たちは、現在各方面に見られる困難な問題に直面しながら、その解決のために、少人数、特定の地域のみ、を対象とする宣教師派遣団体とは別に、あるいはそれらの合同によって、広く福音的諸教派、諸教会を背景とする、超教派的な宣教師派遣のための海外宣教団体を、新しく作ることが、主のみこころに叶うことであると信じるようになりました。宣教師として召されている人々を、送り出そうとしている諸教会の中には、すでに、このような新しい宣教師派遣団体発足を要望する声が出ています。そのために祈り、検討するうちに、諸教会の中で同じ志を持つ者たちが集まり、導きを求めつつ、新しい宣教師派遣団体発足の準備をするように導かれました。

一言申し添えますなら、この団体は宣教団体として JOMA の一員として参加することがふさわしいと思われれます。当初は、小さな団体がもう一つ出来たかの印象を与えるかもしれませんが、この団体の発足によって、今後、宣教師が起こされる度に、小さな団体が出来る必要がなくなることが期待されます。

私たちは、協力諸教会から選ばれるこの団体の役員たちによって、宣教師の受け入れ、訓練、派遣等を、主の前に責任をもって、なされて行くことを願っています。また、海外においては、世界各地の働きに経験のある福音的な宣教団体との提携を求めて行くことも賢明な

ことと考えております。

私たちの願いは「信仰による海外宣教団体（フェイス・ミッション）」を設立して、日本にある福音的な教会の要望に応え、主のしもべとしての宣教師派遣の道を確立することにあります。

「信仰による海外宣教団体」の原則については、次のように理解しています。

1. 宣教活動の一切の必要を神のみに期待する。
2. 指定献金は指定どおりに用いられる。
3. 宣教師の宣教地における働きは、原則として現地の教会（あるいは団体）と協力して行なう。
4. 理事会は前記のように、宣教師の身分について責任を負う。

どうぞ以上の趣旨をご理解くださいますよう、このために祈り、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

1977年3月28日

アンテオケ宣教会 発起人 （あいうえお順）

荒品光一	井出定治	岩下三郎	飯塚俊雄
大村裕康	奥山 実	尾城秀雄	唐渡 弘
鎌田光則	川村江弥	栗原延元	子安敏夫
近藤満男	坂野慧吉	清水昭三	鈴木 健之
田辺正隆	滝元 明	千田次郎	中尾邦三
長沢敏雄	西沢幸一	林 健	羽鳥 明
樋口信平	舟喜順一	舟喜拓生	舟喜 信
船田武雄	細川勝利	正木 茂	K.ラウンドヒル